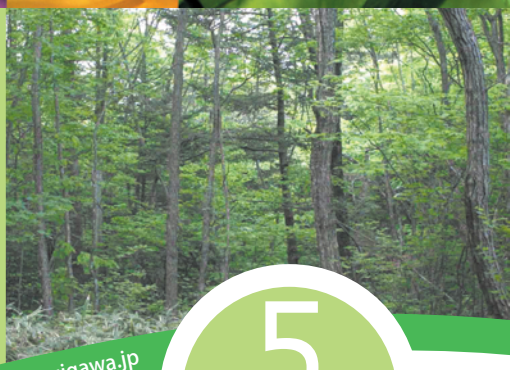
Rio

豊田市矢作川研究所　月報

◆豊田市の目指す生物多様性の保全
◆体験的な活動から感じられる自然
　ー豊田市総合野外センターー
◆旭高原元気村
◆第7回「矢作川　森の健康診断」のお知らせ



5
2011
No.152

豊田市矢作川研究所　〒471-0025 愛知県豊田市西町2-19 豊田市職員会館1F
TEL 0565-34-6860　FAX 0565-34-6028　e-mail yahagi@yahagigawa.jp　URL http://yahagigawa.jp

豊田市の目指す生物多様性の保全

酒井　　斉

地球上には3,000万種とも推定される多様な生物が存在し、うち年間4万種が絶滅しているとも言われています。世界の生物多様性は、生物多様性を構成する「生態系」「種」「遺伝子」の3つの要素で損失が継続しており、「2010年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」という生物多様性条約の2010年目標は達成できませんでした。日本の生物多様性についても、4つの危機「開発や乱獲」「人間活動の縮小」「外来種や化学物質」「地球温暖化」による損失がすべての生態系に及んでおり、全体的に見れば損失は現在も継続していることが国から報告されています。

これらの状況は、豊田市でも同様と想定されますが、生物の生育状況の変化等の全市における継続的な調査が今まで行われていないため、詳細は分かっていません。こうした中、豊田市では、2008年3月に「環境基本計画」を策定し、「自然共生社会」を目指す社会像のひとつに掲げ、重点プロジェクトとして『地域の特性に応じた生物多様性の保全』に取組み始めました。

具体的には、まず保全のための仕組みづくりが必要と考え、自然環境の基礎的な調査から始めなければなりませんでした。時を同じくして2005年の合併後の全市域を対象とする豊田市史の自然編を発行する事業が始まり、その資料を得るための調査を行う必要があったことから、両者を一事業として自然環境調査を実施することとなりました。現在、気候・気象、地形・地質、水文そして生物の各分野の研究者により調査が進められています。生物分野は、さらに植物・昆虫・野鳥などと分担が細分されて調査が実施されており、生物の生息場所等のデータが集まりつつあります。これらを踏まえ、2011年から2か年をかけて、地域の自然環境に応じた「生物多様性地域戦略」を策定していく予定です。

豊田市の自然は、海こそありませんが、海抜数mの平地から1,200m級の山地まで標高差も大きく、田畑の広がる田園地帯や森林など多様です。森林としては都市近郊のいわゆる里山林、スギ・ヒノキの人工林や自然林があります。大小の河川やため池、湿地もあり、一見自然豊かに見えます。しかし放置人工林の問題、アライグマやブルーギルなどの外来生物の影響や、イノシシなどによる獣害が深刻化していることなど、解決が容易でない課題が山積している状態です。2010年秋には、愛知県絶滅危惧IA類のツキノワグマが多数目撃される事態となり、彼らとの共生も豊田市の生物多様性を考える上で重要な課題となりました。こうした課題も地域戦略の主な取組に位置づけ、対応していく考えです。

従来から、豊田市が保全に重点を置いてきた自然環境に湿地があります。豊田市域には約90か所の湿地が確認されていますが、矢並湿地をはじめとする「東海丘陵湧水湿地群」と呼ばれる湿地は、この地方固有の植物が自生し、世界的に貴重なことが分かってきました。2010年9月には、環境省から国際的に重要な湿地を保全するための国際条約「ラムサール条約」の基準に適合するとして「ラムサール条約潜在候補地」に選定

矢並湿地に群生するミカワシオガマ

されました。このタイプの湿地は、面積が小さく、乾燥化や植生遷移による消失など失われやすいことから、矢並湿地では地域の研究者や住民による保全活動が行われています。将来に向け保全活動が継続されるよう、市では支援を行っています。

こうした保全活動が市域全体へ広がるためには、市民一人ひとりが生物多様性の大切さに気づくことが大切だと考え、2008年から、市民参加による「生き物調査」を始めました。これは、指標となる38種の生き物を自宅の周辺など身近な場所で探して、市まで報告するもので、毎年8月に実施しています。普通種ではセミやツバメ、希少種としてはキキョウやメダカ、また外来種も対象としており、セイタカアワダチソウやアメリカザリガニも探します。年毎に参加者が増え2010年には1,400人以上となり、見つかる生き物も多くなっています。

これ以外に「水生生物調査」も実施しています。これは、身近な“川のきれいさ”をそこにすむ生き物の種類によって調べるものですが、毎年20校程の小学校により継続的に実施されています。

今後も、「豊田市自然観察の森」や「環境学習施設eco-T（エコット）」での活動とも協力し、生き物にふれあう体験から、生物多様性への理解を市民の皆さんへ広げていきたいと考えています。私たち人間の生存基盤となる生物多様性の保全の大切さに気づき、市内各所の身近なところで行動が始まることを目指します。

（さかい　ひとし、
豊田市環境部環境政策課副主幹）

体験的な活動から感じられる自然

―豊田市総合野外センター―

塚本　隆博

豊田市総合野外センターは、自然の中で集団訓練・野外活動・宿泊活動・自然探求等を行う社会教育施設です。日帰りや宿泊を伴う体験的な活動を通して青少年の豊かな情操を養い、健やかな成長を図る事を目的に1970年に「少年自然の家」「青少年キャンプ場」の2つを併設する施設として開設されました（自然の家は1975年オープン）。豊田市東部（松平・下山地区）にそびえる「炮烙（ほうろく）山（684m）」と「六所（ろくしょ）山（611m）」を仰ぎ見る、標高約400mに位置する四季折々の自然に恵まれた場所です。炮烙山、六所山には数多くのハイキングコースがあり、特に六所山山頂の神社への参拝ルートであったと言われている「いのししコース」は、900年以上の歴史があり原生林の散策が楽しめます。

豊田市総合野外センター

当施設は青少年団体の利用が中心となっており、小学校5年生の「キャンプ」と中学校1年生の「宿泊学習」で69の小中学校（市内の69%）、こども園（幼稚園・保育園含む）97園（96%）、その他にも子ども会やボーイスカウト等約200団体に活動していただいております（平成21年度実績31,988人）。約400団体の利用団体の方には体験活動を通して豊かな自然を学べる「探検ビンゴ」「各種のネイチャーゲーム」を行っております。また、より詳しく自然観察を希望している小中学校については「インタープリター」による小人数での「自然観察プログラム」を提供しております。

シュンラン

上記の団体以外でも、前述のハイキングコースの利用や場内自由散策は、どなたでもできます。また家族単位（小中学生を含む家族）の利用が可能な家族開放デー＆親子ｄｅキャンプを提供しており、体験活動のなかで環境学習ができます。特に好評なのは「天体観察」です。六所山では晴天時の月等の条件が良い場合には肉眼で5等星まで見ることができます。大気の状況や光害についての調査・全国星空継続観察（スターウオッチング・ネットワーク…環境省が昭和63年から年2回行っている調査）によると、豊田の市街地で星が10個程度、2等星まで

しか見えないのに比べて、六所山では100個以上も見る事ができます。このように大気の澄んだ所にある施設ですから望遠鏡も多く設置されており、当施設の職員が星空案内人となって、家族で気楽に天体観察を楽しむ事ができます（口径350㎜の反射望遠鏡1台、125㎜の屈折望遠鏡3台、その他移動式8台）。

ショウジョウバカマ

今年度は春から夏にかけてリングで有名な土星が観察できます（ご存知の方も多いと思いますが環の傾きが2年前に真横になり今年はＮＡＳＡの写真のように環の傾きは見えません）。夏から冬にかけてはガリレオ・ガリレイが1609年に発見したガリレオ衛星で有名な巨大惑星の木星が見えます。このように今年は惑星観察には適した年ですので、是非「星空散歩」にご来所ください。

（つかもと　たかひろ、
前豊田市総合野外センター副主幹）

旭高原元気村

堀　美智子

豊田市の北東部、標高650ｍの愛知高原国定公園の中に旭高原元気村は位置しています。豊田市中心部から車で約1時間。ここは多くの自然に囲まれており、四季折々の美しい風景が広がっています。

春には徐々に日差しが暖かくなり、元気村内のあちらこちらで、寒い冬を耐えてきた若芽がいっせいに芽吹きだします。鮮やかな色で目を楽しませてくれるつつじやさまざまな種類の桜。湿原では食虫植物やモウセンゴケなどの新芽を見られるようになり、遊歩道を歩くと新緑を楽しむことができます。また元気村には愛知県の木であるハナノキが自生しています。自生しているハナノキは大変珍しく、元気村内にも7本のみ確認されているだけです。春の花と秋の紅葉の時期には赤く染まる姿を見ることができるのでおすすめです。

春を彩る八重桜

牧場では豊田市の牛が放牧され、のんびりと草を食んでいる姿を見ることができます。牛舎では生まれたばかりの子牛が親牛に寄り添っているかわいらしい姿が見られます。

4月から11月の夏シーズンにはキャンプやバーベキューをはじめ、さまざまなアウトドアアクティビティを行うことができます。

日常生活を離れて、大自然の中で電気のない生活を体験できるテントサイト。バンガローやファミリーロッジでは、高原の雰囲気を楽しみながら、バーベキューを楽しんだり、昆虫探しをしたり。元気村では子どもたちが大好きなミヤマクワガタやカミキリムシ、数え切れないくらいたくさんの種類の昆虫採集もできます。きらめき館3階の自然観察コーナーでは旭地区で採集した多くの昆虫の標本が展示してあるので、捕まえた昆虫の名前を探して、何種類みつけられるか挑戦してみてはいかがでしょうか。

自然の中のバンガロー

また標高が高く電灯が少ない元気村では、夜になると星がとてもきれいに見えます。夏の大三角形や北斗七星など、学校で習ったことのある星をみつけてみるのも楽しいです。さらにきらめき館にある天文台では、口径40cmの高性能の天体望遠鏡で土星や木星などを見る観望会も開催しています（要予約）。写

真でしか見たことのなかった惑星を自分の目で見られるのはちょっとした感動体験です。

また日帰りのバーベキュー場もあるので、昼間のみの方も十分遊んでいくことができます。

土・日曜日、祝日、GW、お盆の時期にはふれあい動物園も開業するので、ヤギやヒツジ、馬やウサギなどにふれあえます。普段出会うことのない動物たちには、最初はちょっと怖いかもしれませんが、みんなとてもかわいく、写真を撮る人でいっぱいになります。

ふれあい動物園の木曽馬

秋になり涼しい風が吹き始めると、収穫の秋が始まります。栗や柿、自然薯を収穫する体験教室が開催され、毎回大人気になっています。自分で収穫したもので作るお菓子や料理は何よりもおいしいです。

紅葉が始まる頃になると、元気村から望める御嶽山や恵那山が雪化粧をし始めます。昔から、恵那山が雪化粧をすると１週間以内に元気村の気温が０度近くまで下がるといわれ、毎年そのとおりになっています。また元気村で利用する木炭を作るため、紅葉の終わったコナラやアベマキを炭窯に入れ、炭窯が煙を上げ始めると本格的な冬の訪れとなります。

12月初旬から３月末までの冬シーズンには雪の広場がオープンし、ソリすべりをしたり雪遊びをしたりする親子の姿がみられます。寒さを忘れて子どもも大人も一緒になって一日中遊んでいます。

村内をめぐる遊歩道

そうした中でも、自然の木々は、新しい若芽や葉を綿毛で包み込み春を迎える準備をしています。

旭高原元気村の手の加えられた自然の中にも、まだたくさんの発見や宝物がかくれています。一歩自然の中に足を踏み入れてみるだけで、いろいろなものがみつけられるはずです。

最後にみなさんにひとつだけお願いがあります。身近にある森や自然にふれるときには、森の生き物や植物に「おじゃします」「ありがとう」の気持ちを忘ないでください。そうしたら自然もあたたかく迎えてくれるはずです。

（ほり　みちこ、
豊田市旭高原自然活用村協会総務担当）

▶第７回「矢作川 森の健康診断」のお知らせ

今年も、市民の手で矢作川流域の人工林を調べる「矢作川 森の健康診断」が開催されます。皆さんのご参加をお待ちしています。

◆日　　時：2011年６月４日（土）９：00集合（17：00頃解散予定）
◆集合場所：旧愛知県立田口高校 稲武分校跡地（豊田市稲武町宮ノヒラ）
◆参 加 費：500円
◆申し込み方法：森の健診ポータルサイト（http://mori-gis.org/）を参照のこと
◆募集締め切り：５月８日（日）（当日消印有効）

後記

今回は、一昨年のRio138号に続いて市内の環境学習施設の紹介と共に、市環境政策課の取組の紹介をしました。市内の豊かな自然環境を有効活用することは、潤いのある豊かな生活に貢献すると共に、自然の大切さに気づき、また次世代育成にもつながる大きな流れを作る原動力ともなるでしょう。その活動施設や団体とのネットワークを、今後も続けていきたいと思っています。（間）

R100 再生紙を使用しています